

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和元年度第3回加東市児童館運営委員会										
開催日時	令和2年2月26日(水) 午前10時00分から午前11時10分まで										
開催場所	加東市役所 5階 501会議室										
<p>議長の氏名 (委員長 鈴木 正敏)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】4人 鈴木 正敏 委員長 長谷川 智子 委員 村上 涼子 委員 平川 真也 委員</p> <p>【欠席委員】1人 岡田 知佳 委員</p>											
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>無し</p>											
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>加東市教育委員会</p> <table border="0"> <tr> <td>こども未来部部長</td> <td>広西 英二</td> </tr> <tr> <td>こども教育課課長</td> <td>壺井 初美</td> </tr> <tr> <td>こども教育課副課長</td> <td>稲岡 めぐみ</td> </tr> <tr> <td>こども教育課主事</td> <td>坂本 亮太</td> </tr> <tr> <td>加東市児童館長</td> <td>依藤 洋子</td> </tr> </table>		こども未来部部長	広西 英二	こども教育課課長	壺井 初美	こども教育課副課長	稲岡 めぐみ	こども教育課主事	坂本 亮太	加東市児童館長	依藤 洋子
こども未来部部長	広西 英二										
こども教育課課長	壺井 初美										
こども教育課副課長	稲岡 めぐみ										
こども教育課主事	坂本 亮太										
加東市児童館長	依藤 洋子										
<p>○議事及び会議結果</p> <p>【議事】</p> <p>(1) 報告事項「令和元年度児童館の事業実績について」 事務局が、資料①から③に基づいて説明し、各委員からご意見をいただきました。</p> <p>(2) 協議事項「令和2年度児童館の事業計画について」 市長からの諮問を受け、事務局が資料④に基づいて説明し、各委員からご意見をいただきました。ご審議いただいた内容は、事務局で取りまとめのうえ、市長へ答申します。</p> <p>(3) その他 事務局が、新型コロナウイルスへの対応について説明し、各委員からご意見をいただきました。</p>											

○会議の経過

【開会】

- ・開会のあいさつ（鈴木委員長）
- ・資料確認（事務局）

【議事】

（1）報告事項「令和元年度児童館の事業実績について」

- ・事務局が資料①から③までを説明、その後委員による質疑応答。

（委員）

食育講座は、家とは違う雰囲気での活動を子どもが楽しんでいた。人形劇も日常的に触れ合う機会が少ないため、子どもにとって非常に新鮮な経験であった。舞台から近い距離で、人形の細部まで観察して楽しむことができるのは、児童館だからできる経験である。

（委員）

プラネタリウムに参加し、子どもが星に興味を持つようになった。児童館で開催するイベントは気軽に参加できるため、子どもが色々なことに興味を持つきっかけを作っている。来年は子どもが小学生になるため、天体望遠鏡づくりにも参加したいと考えている。

（委員）

子どもに体験させたいことや実施したい事業があるが、時間や場所、講師、既存の事業との兼ね合いなど様々な課題や制約がある。特に「参加者から好評なもの」は今後も継続すべきと思うが、運営上大きな課題がある場合は、事業を見直す必要がある。参加者の声をもとに事業の見直しを図ってほしい。

（委員長）

今年度はフォト講座&写真コンテストなどで事業を見直している。来年度も同様に必要な見直しを行ってほしい。

（2）協議事項「令和2年度児童館の事業計画について」

- ・事務局が資料④を説明、その後委員による審議。

（委員）

参加対象が同じものや、事業内容が似ているものを1つの事業に集約している。何を目的として、誰を対象として事業を行うのかがはっきりとしており、事業の見直しや整理ができている証拠である。

（委員長）

「ひろば事業」と「つどいのひろば事業」の違いについて説明願う。

（事務局）

「ひろば事業」は基本的に申し込みが不要な児童館主催の行事である。「つどいのひろば事業」は登録制の親子サークル活動（年齢別）で、年間の目標を設定したうえで利用者自らが月に1度活動を企画、準備、実施するものである。目標に沿って見直しを持ちながら活動するため、親の学びの機会であり、同世代の親との交流を持つことができる。

年間を通して継続的に活動する点、利用者が自主性を持って活動する点に違いがある。

(委員長)

定期的かつ継続的に実施されるサークル活動では、登録児童の低年齢化が事業見直しのポイントになると考えられる。登録児童の低年齢化は、保育所等の就園時期が早まっているためか。

(事務局)

就園が早まっていることに加え、途中入園により年度途中で脱会する者もいるため全体的に人数が減少している。特に3歳児のサークルなどは存続が難しくなっている。

(委員長)

サークルの低年齢化とともに、事業の対象も低年齢化している状況について。

(委員)

七夕や節分など大規模な行事が減るのは残念に感じる。家庭ではできない経験ができるため、高年齢児、小学生向けの行事も継続してほしい。

(委員長)

平日開催ではなかなか参加が難しいかもしれない。

利用者やサークル活動登録者の低年齢化が顕著であるが、高年齢児、小学生向けの行事についても今後充実させてほしい。

(委員)

ファミリーコンサートや映画会、登山など、異年齢の子どもが同時に参加できる事業がありうれしく思う。

来年度実施しない七夕や節分の行事については、サークル活動の中で「季節の行事」として取り入れることも可能と考える。

(委員長)

行事の見直しによって、運営を効率化するのか。

(事務局)

令和2年4月からの会計年度任用職員制度導入により、フルタイムと短時間勤務に職員の就労形態が変化する。そのため、事業に携わる職員に限られることとなり、事業規模の縮小や統合、廃止をせざるを得なくなった。

見直しによりなくなった行事は、ひろば事業やサークル活動に組み込むことで実施していく予定であり、他の活動の中で実施できるように計画していく。

また、サークルの数や登録者は減少したが、規模が小さくなったことでサークル同士での合同活動が可能となると考えている。特に社児童館「やしろこどものいえ」では登録者数が多かったため、サークル同士での合同活動ができなかったが、登録者数が半数になったことで、合同で規模の大きいイベントを企画、実施することができる。

(委員長)

働き方改革によって縮小（廃止）された事業をサークル活動で実施するなど、今後の児童館運営は利用者による自主運営が大きな役割を果たすようになる。サークルの規模の縮小によって、サークル同士での活動がやりやすくなると考えられるので、サークルの自主運営による活動を職員は利用者へ働きかけてほしい。

食育など家庭でできないことを体験できる場としての機能も期待しているので、現状の体制で可能な範囲で計画を立て、どの事業を続けていくのか、どのように事業を集約するのか利用者の意見を参考にして判断してほしい。

今年度から来年度にかけて、児童館は運営方針の転換期にあると言える。より良い児

児童館運営のため、今後も審議を重ねていきたい。

(3) その他

- ・事務局が新型コロナウイルスへの対応について説明。

(事務局)

新型コロナウイルス感染拡大防止のために対策を講じているが、利用者の立場から利用にあたって不安に思うことなど、意見をいただきたい。

(委員)

利用にあたって特に不安に感じることはない。兵庫県内で感染者が発見された段階で、対応をより厳しくしてはどうか。

(委員)

毎冬感染症への対策はしており、特に不安に感じることはない。家庭によって対策や考え方は違うため、開館の全面中止には踏み切らず、個々の判断で利用するかどうか決めればよいのではないか。

(委員)

新型コロナウイルスに限らず様々な感染症について言えるが、体調が優れない時は人が集まる場所へ行かないようにするなど、個人の意識が重要となる。

深刻な事態に陥らないために、利用者への自主的な判断を呼びかけ、周知させる必要がある。

(事務局)

貼り紙やチラシ、ホームページを通して、利用者への周知を図っていく。

(委員長)

今後の児童館運営にも影響が生じるため、早期の収束を願う。

【閉会】

- ・事務局より連絡（次回の委員会について）
- ・閉会のあいさつ（広西部長）

○当日資料

- 資料①-1 児童館来館者数（平成26年度～令和元年度）
- 資料①-2 令和元年度 児童館来館者数（前年度との比較）
- 資料①-3 令和元年度 児童館来館者の内訳
- 資料② 令和元年度 「かとう子育てねっと」運営状況
- 資料③ 令和元年度 児童館主要事業実績
- 資料④ 令和2年度 児童館主要事業計画

令和2年3月13日

委員長

鈴木正敏 